

湊山公園のニホンザル7頭 動物研究所に無償譲渡



米子市は
公表せず

市民団体、改善求める

米子市にある湊山公園のニホンザル7頭が昨年5月、繁殖させたサルを研究機関などの実験用に提供している、奄美大島の日本野生動物研究所に無償譲渡されていたことが25日、分かった。同園ではサルの繁殖制限をしておらず、増えすぎたサルの引き取り手を探していた。市民団体が「飼うなら繁殖を抑える措置をするべきで、動物の転用は倫理上、許されない」として改善を求めている。

同公園を管理する同市によると、譲渡したのは雌4頭、雄3頭。同公園で86年からサルを飼い始めたが、当初15頭の飼育を想定していたのに、倍近くまで増えていた。90

身を寄せ合って寒さをしのぐ湊山公園のニホンザル。米子市西町で

04年にかけては、山口県の猿回しの会に計7頭が譲渡されたという。動物園などのサルの過繁殖は全国的な問題だが、研究機関への提供は「間引き」ともとられ、市民らの間で抵抗感が強い。

県は今年度（12月末現在）、保健所に収容され

た犬107頭、ネコ77頭を鳥取大学農学部獣医学科に譲渡したが、「動物愛護の世論が高まる時代の流れの中、見直しが必要」とし、来年度に廃止する。

同市は、昨年譲渡されたサルは、直接実験には使われないとしているが、鳥取共生動物市民連絡協議会は2月、譲渡の事実が市民に公表されていない点指摘。

「繁殖制限と譲渡廃止を基本運営方針として明文化すること」などとする要望書を同市に提出した。

しかし、同市は「効果的な繁殖制限は難しい。今後とも余剰のサルが出てしまった場合には殺処分するより、譲渡を選ぶだろう」としている。